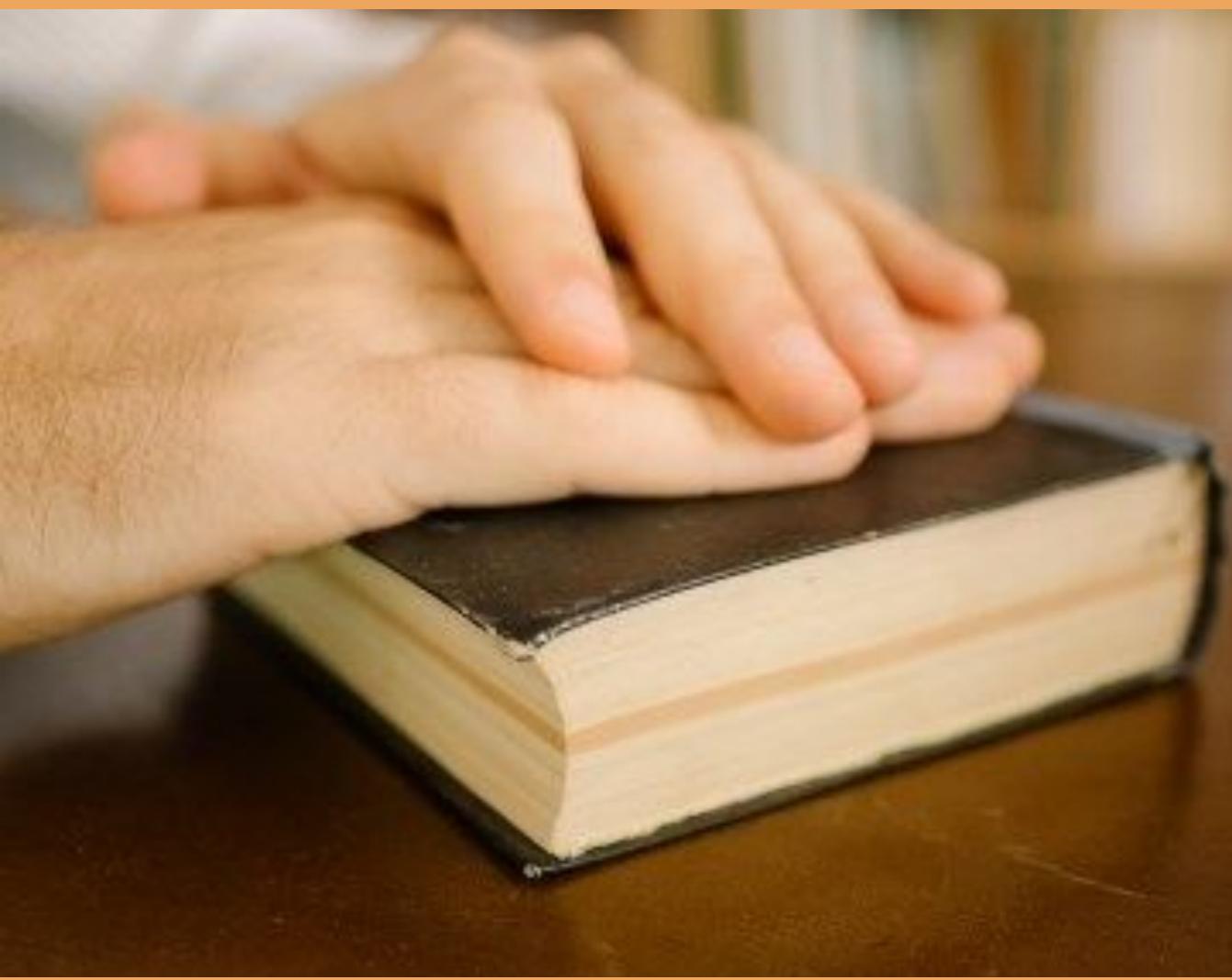


本の修理マニュアル



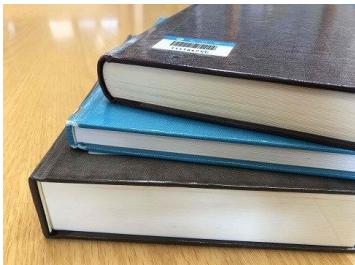
図書館では、ボランティアの皆様にご協力いただいて、壊れた本の修理をしています。ここで紹介している修理方法は、製本修理の講習会などで教えていただいたものや、毎日の修理の中でボランティアさんたちが工夫して行っている方法です。これらの修理方法が参考になれば幸いです。

目次

本の種類と部分名称	02
本の綴じ方	03
補修用道具＆資材	04
ブッカーのかけ方	10
ページの破れ補修	13
ページの外れ補修	14
テープのはがし方	15

本の種類と部分名称

- 上製本(ハードカバー)…ボル紙を芯にして表紙にし、中身を包む製本。
丸背と角背がある。



丸背

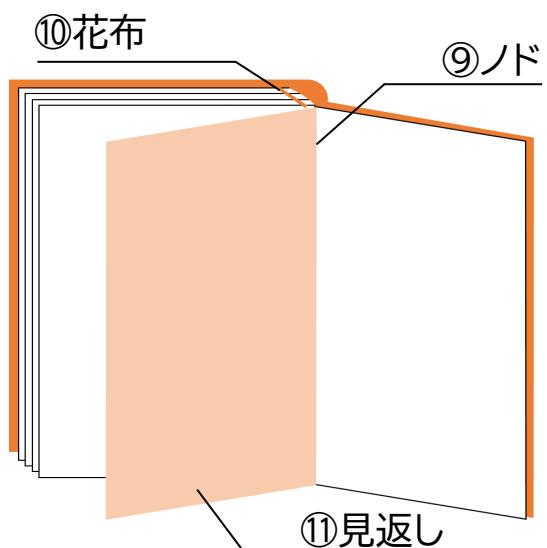
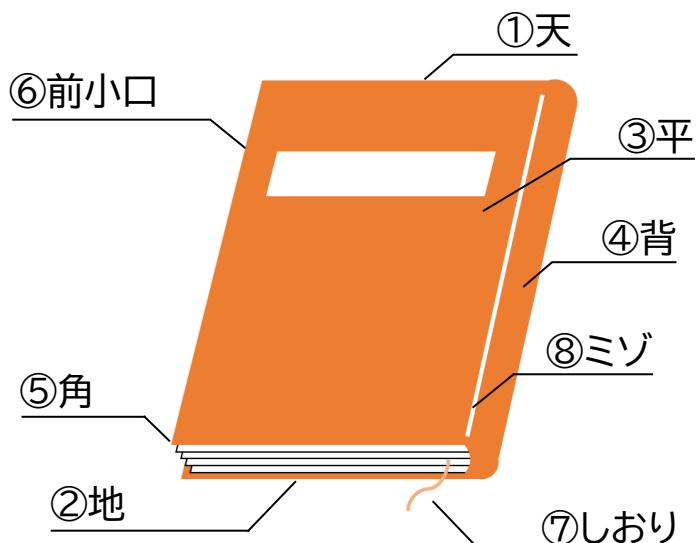
角背

- 並製本(ソフトカバー)…厚めの紙で中身を包む製本方法



※ソフトカバーの綴じ方については、p.3を参照

●本の名称



①天…本の上の部分。

⑦しおり…読んでいるところなどに挟む紐。

②地…本の下の部分。

⑧ミゾ…背と平の継ぎ目。本を開きやすくする。

③平…本の平面部分。

⑨ノド…本を綴じている側。

④背…本を束ねている部分。

⑩花布はなぎれ…背の天地についている布製の飾り。

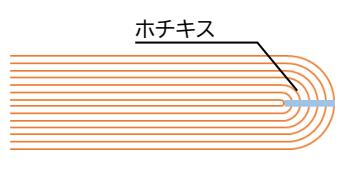
⑤角…本の四隅。

補強の役割も兼ねている。

⑥前小口…中身の背の反対側。⑪見返し…中身と表紙の間に付けてある紙。

本の綴じ方

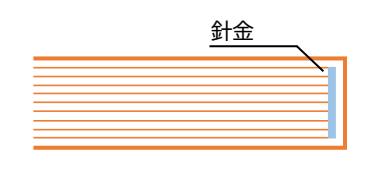
中綴じ



二つ折りにした紙の折り目を、ホチキスなどで綴じた本。

- 用途…週刊誌、パンフレットなど

平綴じ



背から5mm程度のところを、針金やホチキスなどで綴じた本。丈夫だが、本のノドの部分までは開かない。

- 用途…教科書、報告書、企画書など

無線綴じ



糸や針金を使わないので、本の背を糊や樹脂で固めて綴じた本。

- 用途…文庫本、雑誌、漫画、週刊誌、上製本、並製本など

糸綴じ



二つ折りした本の中見の背を、糸でかがって綴じた本。ノドまで開くことができて丈夫なため、上製本に使われる。

- 用途…図鑑、辞典、百科事典など

あじろ綴じ



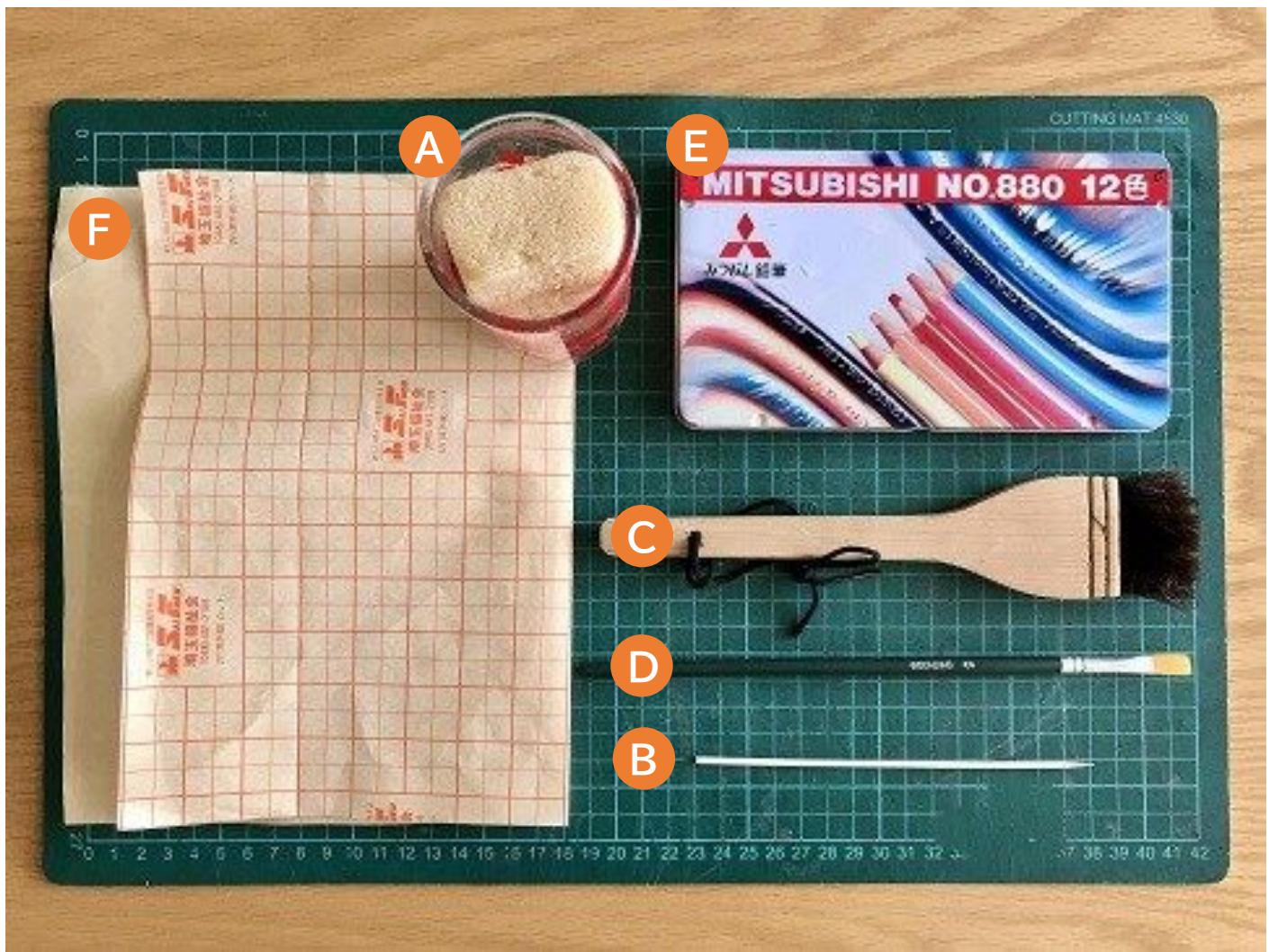
無線綴じの改良版。背の部分に切れ込みを入れて、糊や樹脂を浸透させて強度を増した本。

- 用途…上製本、並製本、写真誌、辞典など

補修用道具＆資材



- A はさみ
- B カッター
- C カッターマット
- D 定規…用途に応じて、プラスチック製・竹製・金属製を使い分ける。
- E ピンセット
- F 目打ち(製本用、洋裁用)…糸綴じ修理の際に、針を通す穴を開ける。
- G 目玉クリップ
- H 紙やすり



- A コップとスポンジ…水を入れて、筆や竹串についたボンドをとる。
- B 竹串…ボンドをつけるときに使用する。
- C 刷毛…広い面に糊をぬるときにつかう。
- D 絵筆…糊やボンドを塗るときに使用する。コシの強いものが使いやすい。
- E 色鉛筆…色が欠けた部分を補修する。
- F 剥離紙(ヅッカーなど)…補修でノドにボンドを入れたとき、ページ同士の貼りつき予防のために挟む(クッキングシートで代用可)。



- A **木槌(丸さい)**…紙を折ったときに、厚みが出ないよう叩いて仕上げるために使用する。
- B **金槌(玄翁)**…山だし用の叩きに使用する。
- C **櫻矢**…目打ちで穴を開けるとき、目打ちを叩くもの。
- D **定木**…丸み出し、紙揃えの直し、本の小口の直角を直すときに使用する。
- E **糸鋸**…接着強度を増すため、本の背に切れ込みを入れるときに使用する。
- F **アイロン**
- G **ドライヤー**
- H **電熱式いちょうごて**
- I **ソルベント(薬剤)**
- } …テープを剥がすときに使用する。



-
- A **目打ち台**…本に穴を開けるときに使用する。
- B **製本用プレス機**…ボンドや糊で補修したあと、本を固定する。
- C **製本機**…ホットメルト(製本糊)を加熱して溶かし、接着させるときに使用する。



- A **ページヘルパー**…ポリエステル製、もしくは特殊和紙テープを、ページの破れた箇所に使用する。糊の劣化が少ないので、テープの厚さが薄く、かさばらないなどの利点がある。
- B **カラーのど布**…布製の製本テープ。表紙と本体の取り付け部(のどの部分)が切れたときの補強に使用する。
- C **補修用ボンド**…本の修理専用のボンド。
乾くと透明になる。水分が蒸発しやすいので管理に注意が必要。
- D **ホットメルトシート**…背の修理を行うときに使用する。加熱すると糊状になり、乾くと接着する。
- E **製本用綴じ糸**…糸綴じ修理を行うときに使用する(#30、#50)。
用途に合わせて麻糸、ポリエステル糸などを使用する。
- F **製本用綴じ針**…製本用は長くて太い。本に合う太さの針を使用する。



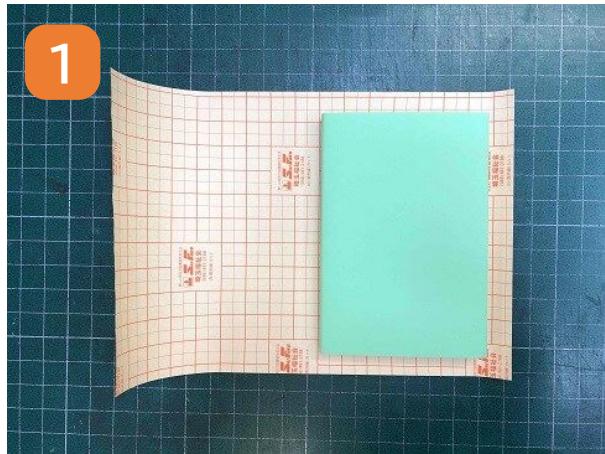
A **寒冷紗**…薄い紙に、細い糸で作ったネットを貼ったもの。

表紙と中身を取りつけるときに使用する。

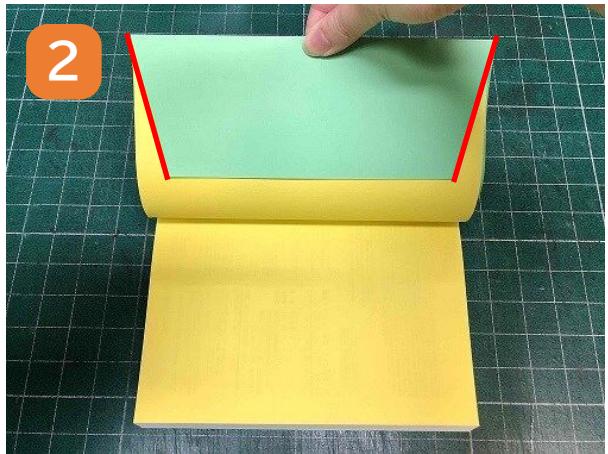
B **ダック寒冷紗**…通常の寒冷紗より強度を増したもの。重い本などに使用する。

C **ブッカー**…本の表紙にかける、粘着性の、薄いビニールカバー。本の大きさに合わせて、数種類のサイズを使用する。フィルムを剥がしたあとの剥離紙は、補修の際の当て紙などに使用する。

ブッカーのかけ方



ブッカーを、天地左右とも本より2cm程度大きくカットする。



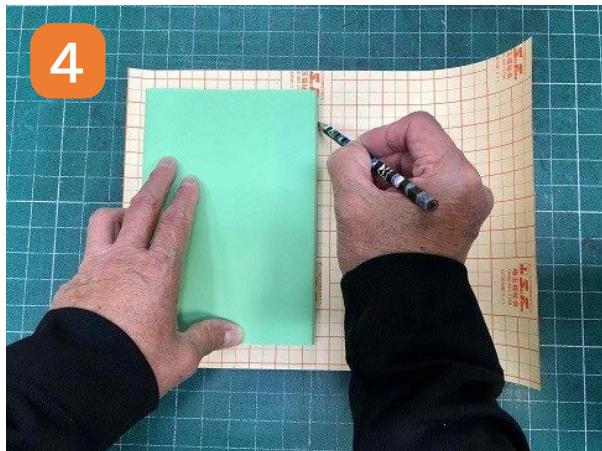
本の表紙にカバーがある場合は、内側への折込部分の4箇所を、写真のようにカットする(ブッカーと表紙の接着面を確保するため)。



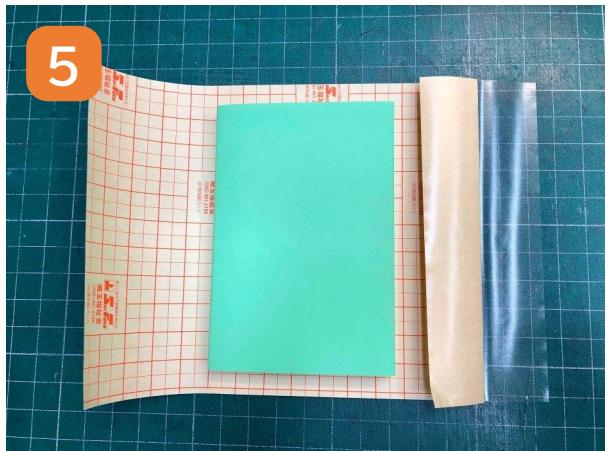
ブッカーの剥離紙を内側にして2つに重ね、間に本を差し込み、位置を決める。

【POINT】

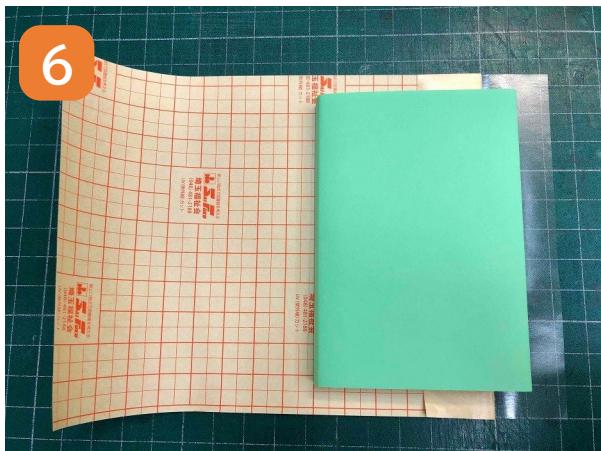
- しっかり奥まで本を差し込む
- ブッカーの上下の隅もしっかり合わせる



ブッカーを開き、本の背の位置に鉛筆で印をつける。本が動かないように注意。



本を一時的によけ、ブッカーの剥離紙を、手前から4~5cm程度めぐり、折り曲げる。



本の背を、手順4でつけた印に合わせ、かつ左右のスペースも合わせる。手前のブッカーの粘着面に、本の小口側を下ろす。



ブッカーと本と一緒にひっくり返す。



背の方向に向かってプラ定規を滑らせ、空気を抜きながらブッカーを貼る。

【POINT】

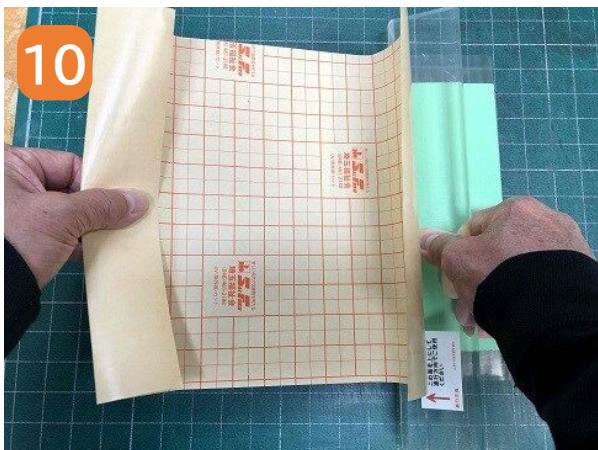
- 定規は少し厚めのものがGOOD！
- 定規は手で持っている側を斜めに持ち上げて、背の方向に押し付けながら滑らせる
- ミゾがある本は、ミゾの部分も定規でしっかり押し付けて貼る



背も定規を押し付けて、ブッカーを貼る。

【POINT】

- 背の部分に空気が残ってしまったら、指などで空気を抜く



▶ 10 反対側も空気が入らないように、プラ定規を滑らせながらブッカーを貼る。小口まで行ったら、剥離紙を完全にはがす。

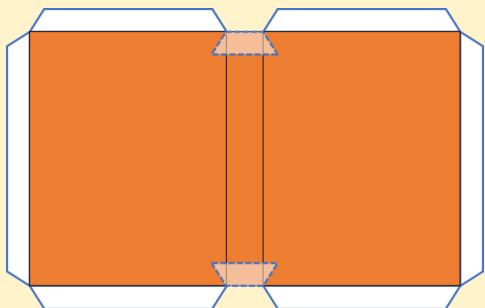


▶ 11 小口・天地のブッカー四隅を、写真のようにをカットする。



▶ 12 小口のブッカーを内側に織り込んで貼る。

【ブッカーの切れ込み】



▶ 13 一度本体を外し、カバー中央部に入れた切れ込みを、天地ともにブッカーを内側に貼る。カバーがない本は、折り込めないので切り取る。



▶ 14 本体をカバーの中に、天地を合わせて戻す。天地部分のブッカーを貼り、完成。

ページの破れ補修



1

破れたページの下に、ブッカーの剥離紙(ツルツルの面を上に)やクッキングシートを敷く。

POINT

- のりしろ部分が折れてる場合は、しっかり伸ばしておく
- ブッカーを敷くことで、他のページにのりがくっつくのを防ぐ



2

筆や竹ひご使って、のりしろの部分にボンドを塗る。手早く、塗り残しがないように。



3

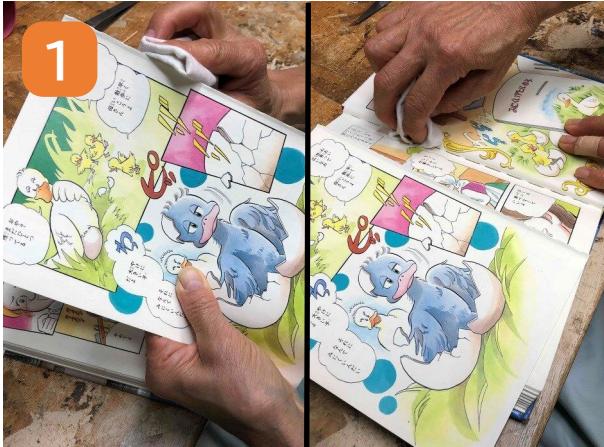
破れた箇所を貼り合わせ、ブッカーの剥離紙(ツルツルの面を下に)やクッキングシートを置く。



4

本を閉じ、のりが渴くまで置いておく。

ページの外れ補修



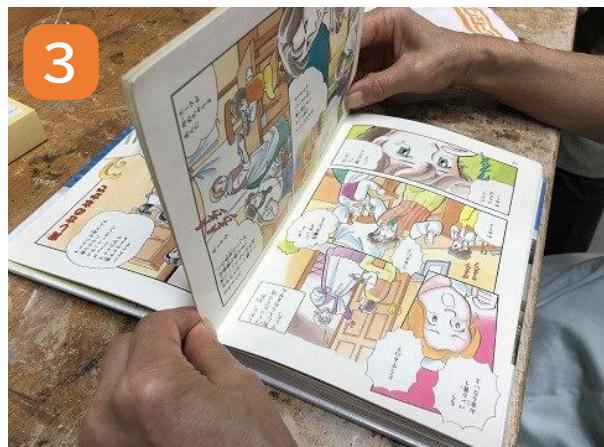
1

外れたページの背と、本体のノドの部分を、タオルなどで拭いてきれいにする。



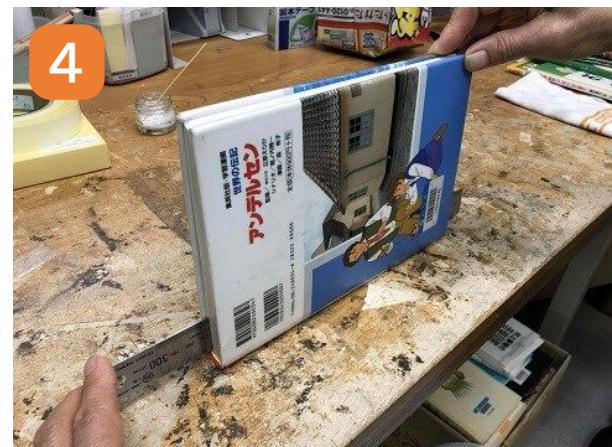
2

外れたページの背と、本体のノドの奥両方に、竹ひごや筆でのりを入れる。



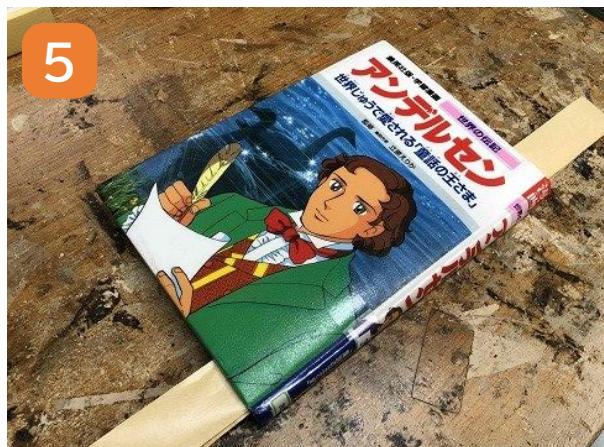
3

外れたページを、天地・小口をきちんと合わせて、ノドの部分に差し込む。



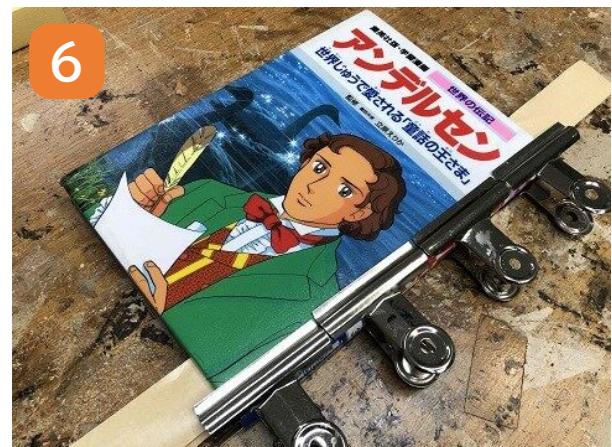
4

定規を使って、軽く押し込む。



5

ブッカーを二つ折り(ツルツルの面を外側)にし、他のページに糊がくっつかないよう、折り山をノド側にして挟む。



6

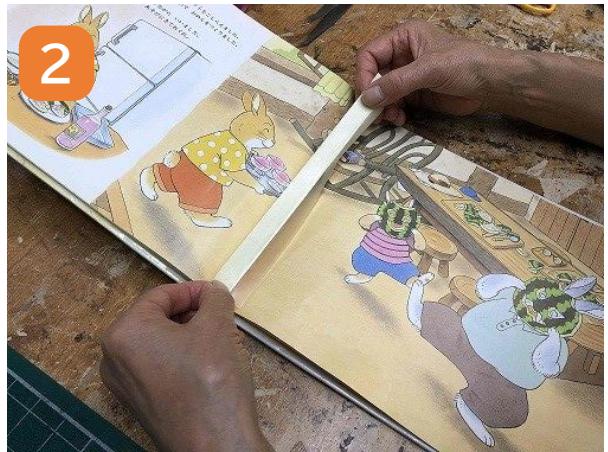
目玉クリップなどで、背を挟んで固定する。

テープのはがし方



1

アイロンやドライヤーの中温で、テープを温めて接着剤を溶かし、ピンセットでテープを剥がす。



2

接着剤が残り、ベタベタしてしまった場合は、ページヘルパーや和紙テープを貼る。

【POINT】

- ページが剥げないようにゆっくり剥がす
- ページが剥げそうになったら、別の角度からテープを剥がす